

## 平成22年度インフルエンザワクチンの需要について（案）

## 1 調査結果概要

## ① 医療機関調査：（平成21年9月に発出）

抽出医療機関（3,364施設）に対し、平成21年度の世代別のインフルエンザワクチン接種人数、接種回数及び次シーズンの需要量の調査票をシーズン前に発出し、シーズン終了後に回収。（単位 万本）

	推定値①	推定値②
幼児・児童（13歳未満）	439.4	439.4
成人（13～64歳）	1,027.7	1,048.4
高齢者（65歳以上）	762.5	772.8
合計	2,229.7	2,260.6

- ※ 推定値①は、幼児・児童が2回接種、成人及び高齢者が1回接種とした場合
- ※ 推定値②は、幼児・児童が2回接種、成人（1回が98.3%）及び高齢者（1回が98.9%）の1回接種・2回接種の割合が調査結果どおりとした場合。
- ※ 推定値①及び②は、昨年の接種人数に係る予測値及び実績推定値のずれを補正したもの

## ② 世帯調査：（平成22年4月に発出）

世代別に住民への郵送によるアンケート調査（3750世帯 10498人）をシーズン終了後に実施し、以下の需要見込本数を算出。

年齢階層別での検討した場合（単位 万本）

	推定値③	95%信頼区間
幼児・児童（13歳未満）	533.3	516.7～549.7
成人（13～64歳）	1449.4	1410～1489.2
高齢者（65歳以上）	688.1	659.9～716.4
合計	2670.8	2,586.6～2,755.3

- ※ 推定値③は、幼児・児童が2回接種で6000円、成人は1回接種の割合が100%とした場合で、1回の接種費用が3000円、高齢者は1回接種で1500円とした場合。

## 2 次シーズンの需要検討の案

今回の医療機関等調査と世帯調査によってワクチンの需要を調査した結果、2つの調査の結果から、今冬のワクチン需要は2,230万本～2,670万本程度であり、本年度のワクチン製造メーカーの製造量は最大で2,905万本程度となる見込みであり、十分な製造・供給能力は確保されている。

なお、インフルエンザワクチンの需要は、社会的な状況や関心・流行状況などの報道等により大きく変動する可能性があることを考慮する必要がある。昨年度は新型インフルエンザの発生・流行に伴い、季節性インフルエンザワクチンの製造を8割程度に減少せざるを得なかったため、例年に比較して接種率も低下したが、一般成人において、平成20年度の水準またはそれ以上の回帰直線上に伸びたと想定した場合には、更に需要量が、370万本(※)程度増加する可能性も考えられるが、その場合でもほぼ、十分な製造量を確保していると考えられる。

(※) 13歳以上を平成20年度と同接種率とし、13歳～65歳をこれまでの接種率の上昇割合を勘案した場合、370万本程度の増加の可能性があり得る。

### <参考>

今冬のインフルエンザワクチン製造予定量の最大量は、現時点で4社合わせて計2,905万本である。しかし、インフルエンザワクチンの製造量は、ウイルスを鶏卵で増殖させて製造するため、ウイルスの増殖力、気温、鶏卵の質等に大きく影響を受けるため、この製造予定量はあくまでも現時点での目安である。

( 参 考 )

昨年（平成21年）実績

(単位 万本)

予測値最大(※)	予測値最小(※)
—	—

製造量	医療機関納入	医療機関使用
2, 313	2, 127	2, 039

(※) H21年度の実績について、ワクチン製造業者は新型インフルエンザ(A/H1N1)ワクチンを製造する必要があったことから、通常のインフルエンザワクチンの供給は前年度実績の約8割程度となる見込であり、当初から供給量が決まっていたため、需要予測は実施しなかった。

一昨年（平成20年）の予測と実績

(単位 万本)

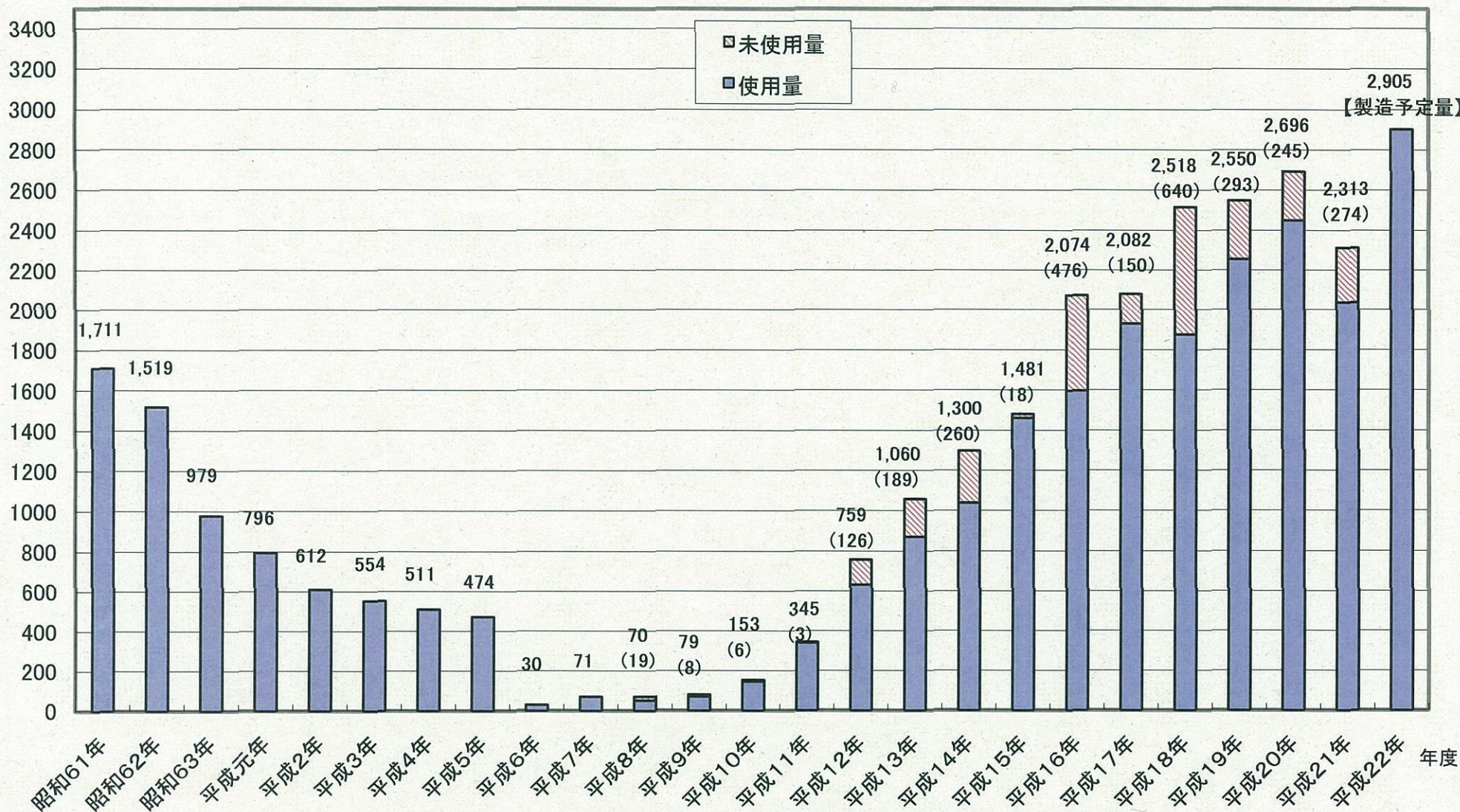
予測値最大	予測値最小
2, 400	2, 145

製造量	医療機関納入	医療機関使用
2, 696	2, 462	2, 451

# インフルエンザワクチン製造量の推移

平成22年7月5日現在

数量(万本)



グラフ中の数字は、製造量  
( )は未使用量(内数)

※1本1ml換算。  
※平成7年以前の未使用量については不明。  
※未使用量には返品数と流動在庫が含まれる。

参考資料1

## インフルエンザワクチン各種接種率の比較

	需要予測における推定接種(見込)率								需要検討会 高齢者 予防接種状況調査報告	結核感染症課 予防接種実施率
	医療機関調査				世帯調査					
	13歳未満	13歳～65歳未満	65歳以上	全体	13歳未満	13歳～65歳未満	65歳以上	全体	65歳以上(60歳以上・65歳未満の特定疾患者含む)	65歳以上(60歳以上・65歳未満の特定疾患者含む)
平成18年度	40.3%	18.4%	51.1%	27.9%	27.2%	19.0%	58.7%	28.3%	50.2%	48.3%
平成19年度	41.4%	23.3%	54.8%	32.6%	40.0%	26.2%	62.4%	35.6%	54.7%	—
平成20年度	54.1%	27.7%	54.7%	37.1%	58.3%	37.9%	62.2%	35.6%	55.9%	—
平成21年度	42.9%	24.1%	51.3%	32.6%	50.7%	35.6%	52.8%	41.2%	49.7%	—
平成22年度(見込み)	60.2%	24.5%	52.6%	35.0%	62.3%	34.9%	52.3%	42.3%	—	—

平成22年度	乳幼児・小学生	成人等	高齢者	総人口
	14,620,000	83,883,000	29,006,000	127,509,000
接種率(%)	60.2	24.5	49.7	
接種人数	8,801,240	20,551,335	14,415,982	
接種回数	2	1.11	1	
1回投与量(mL)	0.25	0.5	0.5	
使用本数	4,400,620	11,405,991	7,207,991	合計本数 23,014,602

平成21年度	乳幼児・小学生	成人等	高齢者	総人口
	14,620,000	83,883,000	29,006,000	127,509,000
接種率(%)	42.9	24.1	49.7	
接種人数	6,271,980	20,215,803	14,415,982	
接種回数	2	1.11	1	
1回投与量(mL)	0.25	0.5	0.5	
使用本数	3,135,990	11,219,771	7,207,991	合計本数 21,563,752

平成20年度	乳幼児・小学生	成人等	高齢者	総人口
	14,761,000	84,716,000	28,217,000	127,694,000
接種率(%)	54.1	27.7	55.9	
接種人数	7,985,701	23,466,332	15,773,303	
接種回数	2	1.11	1	
1回投与量(mL)	0.25	0.5	0.5	
使用本数	3,992,851	13,023,814	7,886,652	合計本数 24,903,316

平成19年度	乳幼児・小学生	成人等	高齢者	総人口
	14,893,000	85,415,000	27,465,000	127,771,000
接種率(%)	41.4	23.3	54.7	
接種人数	6,165,702	19,901,695	15,023,355	
接種回数	2	1.11	1	
1回投与量(mL)	0.25	0.5	0.5	
使用本数	3,082,851	11,045,441	7,511,678	合計本数 21,639,969

平成18年度	乳幼児・小学生	成人等	高齢者	総人口
	15,031,000	86,134,000	26,601,000	127,770,000
接種率(%)	40.3	18.4	50.2	
接種人数	6,057,493	15,848,656	13,353,702	
接種回数	2	1.11	1	
1回投与量(mL)	0.25	0.5	0.5	
使用本数	3,028,747	8,796,004	6,676,851	合計本数 18,501,602

注1) 乳幼児・小学生は0～12歳。成人等は13～64歳。高齢者は65歳以上。

注2) 人口は総務省統計局人口推計による。平成22年度の人口は、平成21年度の人口を使用。

注3) 乳幼児・小学生の1回投与量は、薬事法上、0歳が0.1mL、1～5歳が0.2mL、6～12歳が0.3mLとなっていることから、これらの平均値(0.25mL)を用いた。

注4) 平成18～21年度の高齢者の接種率は、血液対策課が調査した高齢者予防接種状況調査の結果を参考にした。

注5) 平成18～22年度の乳幼児・小学生及び成人等の接種率は、医療機関調査及び世帯調査の接種率を参考に、あてはめたもの。